



主体的で対話的な深い学びを実現するために ～自分に合った方法を選択し、学びに向かう～

学校教育目標である「笑顔生み出す児童の育成」のため、本校では「協調学習」「自立的な学び」を軸に教育活動を行っています。今回は「自立的な学び」を実践する中で、一人一台タブレットやeライブラリの活用場面を紹介します。

【実践紹介①】 小学2年 教科外 めあて：タブレットをつかいこなそう！

2年生はタブレットに慣れるためのツールとしてもeライブラリを利用しています。本時の前半部分は「eライブラリ」、後半部分は「自己紹介 (Word)」を利用し、タブレット学習に取り組みました。

授業の流れ

導入



先生が「めあて」を板書し、みんなで確認します。

前半



eライブラリで算数の確認テストに取り組みます。

後半



Wordを利用して自己紹介を作成します。

【前半】eライブラリで確認テストに取り組もう！

授業のはじめは、eライブラリの「確認テスト」をおこないます。
先生が事前に算数のテストを出題し、子ども達はタブレットに向かい、ログインをして問題を解き進めます。
途中計算は「学習メモ機能」を使いながら、真剣な表情で取り組んでいました。



▲先生からの課題を確認



▲計算は「学習メモ機能」を利用

【後半】自己紹介をつくらう！



▲Wordで自己紹介を作成

確認テストが終わると、各自でキーボード、マウスを準備し、Wordファイルを開き、自己紹介を作成します。

名前、好きな食べ物・アニメや家族のことなどをローマ字の表を片手に一生懸命取り組みました。

自己紹介は、先生がフォーマットを作成 → 「まなびポケット」上で共有 → 子ども達がダウンロード & 入力の手順で進めます。

完成後はプリントアウトをして、クラスに掲示する予定です。

【めあて：単元末テストに向けて練習問題を解いて苦手をなくそう】

学習計画表で本時の内容を確認

単元の「学習計画表」で本時の内容を確認します。その後、先生が「めあて」を板書し授業がスタートします。本時の流れの説明があり、まずは全員でeライブラリの確認テストに取り組みます。

導入は先生から本時の流れの説明▶



導入



一斉に確認テストに取り組む

POINT①

確認テストが配信され、出題された問題に取り組みます。計算は学習メモ機能を使う児童もいれば、ノートを利用する児童もあり、自分に合った方法で確認テストに取り組みます。

◀確認テストに取り組む

確認テスト後は自分で教材を選択し単元の総チェック

POINT②

POINT③

確認テストを終えた児童は、(A)プリント (B)教科書の演習問題 (C)eライブラリの3つの中から自分で選択し、問題を解き進めます。分からない部分は友達同士で教え合ったり、先生にも確認しながら課題に取り組みます。

教科書の演習問題は先生が採点し、全体的につまずきのある部分は黒板を利用し解説を行います。また、個別にフォローが必要な児童へも寄り添い、学習のサポートを行います。

最後は単元の要点や、家庭学習で利用できるeライブラリの解説教材など先生がポイントをまとめて授業が終わります。

展開

子ども達



▲(A)教科書の問題に取り組む



▲(B)プリントの問題に取り組む



▲(C)eライブラリに取り組む

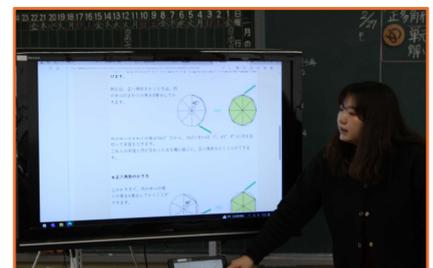
先生



▲演習問題の採点・解説



▲個別に学習のフォロー



▲使える教材は全体に共有

終末

POINT①**確認テストに取り組み、自分の単元の理解度を知る**

単元のまとめの時間に確認テストに取り組むことで、単元末テストの練習になります。

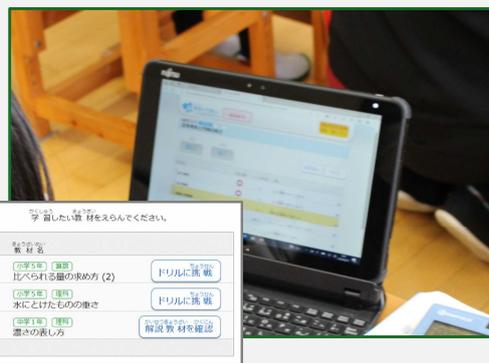
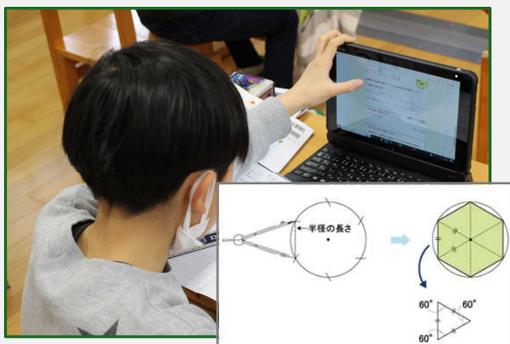
画面上にメモを取ったり、自動採点で解答解説も表示されるため、間違った箇所や、理解に不安が残る箇所はその場ですぐに確認ができます。

◀学習メモ：画面上に手書きで途中計算

確認テストは単元の「学習要素」ごとに理解度を判定し、一覧で表示されるため、自分の苦手や得意を客観的に把握できます。

また「学習要素」をタップすることで、自分の理解度に応じた復習問題にすぐに取り組めるのもeライブラリのメリットです。

確認テスト結果：学習要素ごとに理解度判定▶

**POINT②****eライブラリの解説教材を確認しながらプリントに取り組む**

ドリル教材に限らず、子ども達が学習ツールとして利用できるのもメリットの一つです。

タブレット上でeライブラリに収録されている解説教材を開き、確認しながらプリントに取り組む姿も見られます。

先生が指示する訳でもなく、自ら解説教材を開き取り組みます。自分で教材を選択し学びに向かう姿勢が定着していることが伺えます。

▲解説教材：教科書の要点がまとめられた参考資料

POINT③**学び方の幅を広げる**

デジタルドリルが選択肢に加わることで、子ども達の学び方の幅を広げることができます。

苦手な部分は前学年に戻って学習できることに加え、学力上位層の児童も挑戦レベルの問題や先の学習にも触れることができ、個々に合った学習ができます。

デジタルならではの取り組みやすさや、自分の理解度や頑張りが確認できるので、意欲的に自ら学びに向かうことができます。



▲ドリル教材：基本・標準・挑戦のレベル別に学習ができる。

見通しを立て、授業に臨む

算数・国語を中心に各単元の学習計画表を作成し、当該単元に入る前の時間に配布しています。実践してまだ数ヶ月ですが、5年生では教科書やeライブラリで予習をしていくことが増えました。子ども達には見通しを立て、学ぶ力が身につくことを期待しているとのことです。

自分たちで学びを進める

「LEADER」と記載された授業では、クラスの中からリーダーを決め、自分たちで授業を進めます。先生は一步引いて見守り、必要に応じて支援をします。リーダー学習では、苦手な児童もアウトプットの機会が増えることで理解が深まる様に感じています。

今後は複式学級になる可能性もあるので、先生が常に付いていなくても自分たちで学びを進められることを目標に取り組んでいます。

算数学習計画表「正多角形と円周の長さ」

この単元でしてほしいこと
 ①正多角形の性質や円周率の意味を理解し、円を使って正多角形をかいたり、円周率を使って直径や円周の長さを求めたりすることができる。
 ②図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、正多角形の性質を見つたり、円を使った正多角形のかき方を考えたり、円周率が一定であることをとらえたりして、説明できる。
 ③円と関連させて正多角形の性質やかき方を結び強く考えたり、算数のように気づいて今後の生活や学習に活用しようとしている。

日次	単元	めあてとゴール	教科書(p)
1	正多角形	①辺や角に注目して、多角形の性質を調べよう。 ②正多角形の意味や性質を理解することができる。	100~102
2		③正多角形の性質を調べて、正多角形のかき方を考えよう。 ④円を使って正多角形をかき出せる。	103
3		⑤半径の長さに注目して、何という多角形か考えよう。 ⑥正三角形の辺の長さや角の大きさに着目し、正六角形がかけられる理由を考え説明することができる。	104
4		⑦直径の長さや円周の長さの関係を調べよう。 ⑧正多角形を使って、およその円周の長さの求め方を考え説明することができる。	105~106
5	円周の長さ	⑨いろいろな大きさの円を測って、円周の長さや直径の長さの関係を調べよう。 ⑩「ミッション」の図形にある円を測って、円周の長さが直径の何倍になっているかを調べよう。 何が「まじり」が見つかるはず!! 見つけたら、完成した表をもって先生のところへGO!!!	107
6	円周の長さ	⑪円周の長さを求める式を考えよう。 ⑫円周率と円の直径や半径から円周の長さを求めることができる。	108~109
7		⑬2つの量に注目して、関係を調べよう。 ⑭円周の長さや直径の関係を調べよう。	110
8	まとめ	⑮単元テストに向けて練習問題を解いて苦手をなくそう。 ⑯練習問題を解いて、理解を深めることができる。	

▲小5 算数：正多角形と円周の長さ

実践者インタビュー



教務主任 2年担任
新宅 裕美子 先生

短期的、長期的な視点で目指す姿を明確に

次の学年のあるべき姿を想定し、子ども達の現状から、1学期・2学期・次に向けてどのように取り組んでいくかを考えています。

先生が指導するのではなく、**子ども達が「自分で考え、やってみて、できた!」と感じられるように支援すること**を大切にしています。その中でも、主体的で対話的な学びになることを意識することが重要です。自分の意見が言えて、みんなの意見も聞き自分達で答えに向かっていくことができていると感じています。

eライブラリの利用場面は学年によって様々です。学力補充の時間、授業中のすきま時間、単元テスト前の復習、宿題（普段・長期休業）などで利用しています。全てをデジタルにするのではなく、**選択肢の一つとして子ども達が自分で選んで**学んでいます。先生はeライブラリが加わることで、**プリントの準備や、採点時間がなくなり**、子ども達を見取る時間に充てるなど、効率的に授業を組み立てることができるようになりました。今後はどの学級でも積極的に活用がされ、子ども達のつまずきを確認し日々の授業に活かしていければと考えています。

自分に合った学び方の選択肢を広げるために

子ども達が自分に合った学び方を選択し学ぶことで、学習内容の定着を目標に取り組んでいます。**eライブラリは選択肢の一つ**です。すきま時間や家庭学習などで利用している姿や、**自分の苦手はどこにあるのかを自ら分析し解決しようとする姿**が増えました。それには使い勝手の良さも影響していると思います。

小中9学年の教材で学習ができるので、学力の高い低いに関わらず**自分でもっと成長しようとする際のツール**として利用できる点が、eライブラリを利用して良かったと感じています。また、**たんぼぼの成長やメダルが獲得できることが達成感**につながる点も子ども達にとって良いところです。今後は家庭学習も含め、子ども達が学ぶツールとしてeライブラリをもっと上手く利用していきたいと考えています。



5年担任
穴田 明香 先生